



# 日ごろの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

火災を発生させないための啓発活動に力を入れる

## 第一団地自主防災委員会

第一団地の自主防災組織の結成は、町内でも早く、昭和55年に発足しました。

第一団地の特徴のひとつに、区域内に防災機能を兼ねた前久保中央公園があることがあげられます。第一団地では、その立地条件を活用して、毎年防災訓練を行っています。しかし、近年、参加者が減少傾向にありました。そこで昨年は、内容を一新し、大釜を使用した炊き出し訓練や、電気機器から発生する火災の実演などを取り入れました。防災委員長の久保さくさんは「初めての試みでしたが、多くの人が集まってもらえたので、良かったと思います。なかでも身近にある電気機器が原因で発生する火災の実演には、多くの人が興味を示してくれたので、やってよかったと感じました」と語ってくれました。新しいことを積極的に取り入れ、多くの人が防災訓練に参加してもらえるように工夫をした結果だといえます。

また、第一団地では、高齢化が進んでいることが問題となっ

ています。その対策として、久保さんは「第一団地は、大型消防車の乗り入れが困難な団地です。そのために私たちは、火災を起こさないための啓発活動に特に力を入れています。また、高齢の人には、隣近所の人から日頃から声をかけるなど、見守っていただける体制作りを急いでいます」と話してくれました。



多くの人が参加して行われた昨年の防災訓練の様子

## 名山歴史散歩 文化財シリーズ241 しょうち にかばやし 勝地・苦林野と合戦

毛呂山町東部の大類から苦林、玉林寺一带は、中世、苦林野と呼ばれていました。貞治2年(1363)6月、苦林野を舞台に足利基氏と芳賀禪可の軍勢との間で大きな合戦が行われました。

基氏は関東統治のため置かれた鎌倉府の長官・鎌倉公方となり、幼少のころ自身を補佐した上杉憲顕に越後守護職を与え、関東管領にも登用しました。憲顕のため越後守護職を剥奪された宇都宮氏綱の家臣・芳賀禪可は、鎌倉に出任する途中の憲顕を迎撃しようとした。基氏は芳賀軍を討伐するため北上し、一方、禪可は嫡子・高貞、次男・高家に出撃を命じ、両軍は苦林野で激突しました。『太平記絵巻』には、傷を負った馬から降り、敵方と刀を交え奮闘する基氏の姿も描かれています。結局、基氏が勝利し、芳賀軍は宇都宮へと退却しました。

時代がくだり、15世紀に入ると

関東管領職を巡る争いや幕府に対抗し、関東で政権の基盤を固めようとする鎌倉公方の思惑などが入り混じり、関東全体の政情が不安定になります。鎌倉公方と関東管領の対立に端を発した永享の乱では、鎌倉公方足利持氏が敗れ、自害するにいたりしました。その後、持氏の遺児らが幕府に反旗を翻し結城合戦を起こします。この時、足利方と対立した上杉方の片鼻和性順(上杉憲信)が、苦林野に陣を張ったとされています。さらに、文明9年(1477)には、長尾景春が乱を起こし、長尾方の小机城主矢野兵庫助が苦林野に陣を張りました。

当時、合戦の陣は、五十子陣(深谷市)のような見渡しのいい地勢に優れた勝地を利用することが多かったようです。

苦林野もまさに勝地のひとつで、坂戸市塚原から毛呂山町の玉林寺、大類、川角にかけての古墳群のある台地に立つと、眼下に越辺川沿いの低地が広がり、さらに比企丘陵を見渡すことができます。



苦林古墳に建つ古戦場の碑